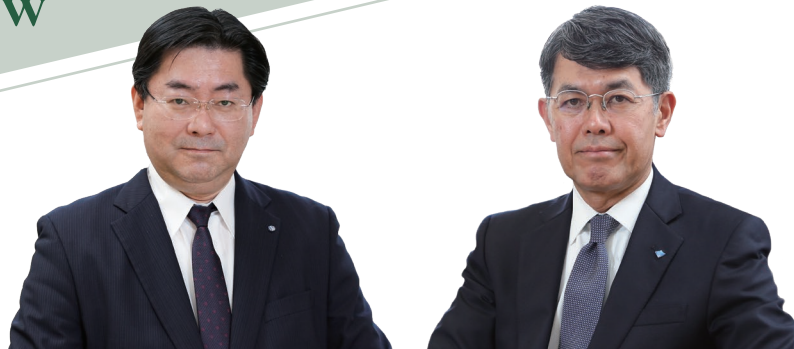


Top Interview



代表取締役会長

野呂裕一

代表取締役社長

播島 聡

2020年3月期連結決算は前期比増収、営業利益および経常利益は前期比増益
今後も環境変化に対応するための経営基盤を強化し、中期経営計画を推進

新型コロナウイルス感染症の脅威が、いまだ我々の身近にある現実を実感する中、療養を余儀なくされている方々にお見舞い申し上げるとともに、不幸にもお亡くなりになられた方々に哀悼の意を捧げます。また、各地で治療や感染予防に力を注がれている方々に、感謝と尊敬の意を表します。

さて、予期せぬ新型コロナウイルス禍に見舞われた2020年3月期ではありましたが、連結決算は前期比増収、

営業利益および経常利益は前期比増益となりました。公益社において首都圏、関西圏ともに葬儀施行件数が増加、タルイにおきましても葬儀施行件数が増加いたしました。この数字は2020年3月期中に新設オープンした4会館（「公益社 香里園会館」「公益社 川西多田会館」「公益社 枚方出屋敷会館」「タルイ会館 北大久保」）での施行件数が寄与したものであり、既存の会館も含め、営業努力やマー

ケティングの強化が功を奏したと言えます。

平均葬儀単価は、公益社および葬仙で上昇いたしました。これらは提案力強化が成果につながったものと考えており、今後もお客様のニーズに合わせた提案を続けてまいります。葬儀後のライフエンディングサポートは、公益社および葬仙で仏壇仏具の販売収入が前期比伸長いたしました。

ただし、当社グループにおきましても新型コロナウイルスの影響は避けられず、公益社における法人向けの大規模葬儀である「お別れの会」が2月下旬以降、中止ないし延期となったほか、一般葬儀でも3月以降に影響が出始め、特に公益社およびタライにおいて会葬者数の減少に伴う葬儀単価の低下が見られました。ただ、公益社におきましては大規模葬儀の件数減、一般葬儀の単価低下の影響を受けながらも、2020年3月期通期での平均葬儀単価は上昇いたしました。

グループ中期経営計画の2年目を迎えて

当社は2019年4月に2022年3月期までの中期経営計画を策定しました。2年目となる今期は特に次の3項目に注力していきます。

まず「ライフエンディングサポート事業の拡充」です。現在も葬儀会社各社にて終活の備えから、ご本人がお亡くなりになった後の家族の安心、充実した生活までをサポートしております。それに加え、新たなビジネスとして2020年4月1日にライフフォワード(株)をグループ内に設立いたしました。当社グループの知見やサービスを活かしたライフエンディングサービスをポータルサイトの紹介を通じて安心・信頼・高品質のサービスを提供いたします。

当社は信頼できるパートナー企業様との提携により、コンプライアンス重視のビジネスを展開していくことで終活から葬儀後のサポートまでの様々なサービスをシームレスに、営業エリアを広げて幅広いお客様に満足いただきたいと考えております。2020年7月からは、葬儀とお墓の紹介をスタートさせ、将来的には、シニアの皆様のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)を高めるための様々なサポートをトータルに提供していきます。

ライフフォワード(株)の設立は、葬儀施行以外の分野でその付加価値を向上させることを最終目標としております。このビジネス展開を機に、ライフエンディングのトータルサポート企業の実現にむけて本格的に進めてまいります。

次に「業務効率の改善」につきましては、2019年度に

立ち上げた〈生産性向上プロジェクト〉により、業務内容や役割の見直しおよびIT化等による業務改善を進めております。

最後に「葬儀事業の積極的な営業エリアの拡大」につきましては、3年間で13会館の新設オープンに向けて昨年度は4会館をオープンさせましたが、今期は4会館のオープンを予定しています。立地と投資効率を追求し、スピードをもってエリアの拡大をおこなっていきます。

新型コロナウイルス感染症影響下の現在、サービスの提供におきましては感染拡大防止対策を徹底したうえで、葬儀会館での会葬者の間隔を広く確保するなど配慮し、お客様ニーズに合わせた対応を実施しています。

コロナ禍での葬儀につきましては、しばらくは遠方のご親戚を呼ばれないなどの小規模化は続くと予想しておりますが、ご遺族の方の亡くなられた方を弔いたいという気持ちは今後も変わりがなく、葬送の場は必要とされております。時代を超えた葬儀の本質を大切にしながら、環境の変化に対応して、新しい時代に求められる付加価値の高いサービスや商品、例えば、参列できない方が遠方から弔う気持ちを表現できるサービスや、グリーフケアも含めたご遺族に寄り添うサービスを今後も提供していきたいと考え

ております。また、エンバールや葬儀後の仏事から諸手続き、生活に関わるトータルサポート等の従来の強みを活かして、これまで以上にお客様の満足度の向上に努めてまいります。

今後も充実した株主還元を

株主様への還元につきましては、安定配当を基軸としつつ増配に努めております。2020年3月期は、当社株式の流動性向上を目的とした株式分割、資本効率の向上を目的とした自社株式の取得をおこないました。今後も株主様への還元をさらに充実させる方針です。

新型コロナウイルスの影響が収束する状況を注視し変化に対応しながら、今後も中期経営計画に基づいて取り組んでまいります。そして3年目(2022年3月期)の目標達成を目指します。株主の皆様には末永いご支援を、よろしくお願い申し上げます。

経営理念

MISSION
わたしたちの使命

人生に潤いと豊かさを。
よりよく生きる喜びを。

VISION
わたしたちの未来・目指す姿

わたしたちは、
人の心に寄り添い、人生の喜びと幸せを創出する企業、
新しい価値、高い付加価値を創造し、
持続的に安定成長していく企業、
一人ひとりが情熱をもって、主体的に行動し挑戦しつづける企業
になることを目指します。

VALUE
わたしたちの価値観

人生を主体的によりよく生きること、成長していくこと
変化を恐れず挑戦しつづけること、進化していくこと

中期経営計画(2020年3月期~2022年3月期)基本方針

- ◆ 1 新経営理念の浸透
- ◆ 2 人財力の強化
- ◆ 3 サービス品質の向上
- ◆ 4 業務効率の改善
- ◆ 5 ライフエンディングサポート事業の拡充
- ◆ 6 新規事業の収益力強化
- ◆ 7 葬儀事業の積極的な営業エリアの拡大
- ◆ 8 リスクマネジメントの強化

損益目標

()内は対前期実績の増減率

	2019年3月期 実績	中計1年目		中計2年目		中計3年目
		2020年3月期 実績	2020年3月期 中計目標	2021年3月期 業績予想*	2021年3月期 中計目標	2022年3月期 中計目標
営業収益	207.6億円	212.8億円 (+2.5%)	213.0億円 (+2.6%)	194.0億円 (-8.8%)	221.0億円 (+3.9%)	229.0億円
営業利益	29.4億円	30.9億円 (+5.2%)	28.1億円 (-4.4%)	15.0億円 (-51.5%)	29.0億円 (-6.1%)	30.3億円
売上高 営業利益率	14.2%	14.5%	13.2%	7.7%	13.1%	13.2%

*2021年3月期業績予想は、2020年5月14日公表数値であり、新型コロナウイルス感染症の業績に与える影響額を織り込んだ予想数値です。